

2025 年度 (令和 7 年度) 学校評価自己評価表

福山市立大門 中学校区

校番 24

福山市立 大門中 学校

最終更新日 2025年（令和7年）4月11日

I 福山市

ミッション

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン

各中学校区・学校が資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区			
前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力
・子ども主体の活動を推進する。 ・情報発信及び地域行事への参加等により、地域と学校の協力体制を図る	・思考力・表現力が弱い。 ・運動やスポーツが好きではない生徒が増加している。 ・自尊感情が高まり、主体的に行動する姿が見えつつある。 ・ボランティア活動に積極的に参加している。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身に付けた生徒
		中学校区として統一した取組等	・子ども主体の学びに向けた授業を創り、思考力・表現力を高める。 ・レーダーチャート等を活用し、学級力や自尊感情、主体性を高める取組をする。 (年3回アンケート実施) ・学校における働き方改革を進める。

Ⅲ 自 校

ミッション	
確かな学力と豊かな心を備え、物事を深く考え自他ともに伸び合う生徒集団を育成し、地域と一体化した教育活動を土台とした学校づくりを推進する。	
学校教育目標	
「よりよく生きる」力の育成 ～自他共栄～	
現 状	
〈児童生徒〉	
○文章の内容の話題や方向を捉えて、自分の考えをもち記述することに課題がある。 ○与えられた課題や役割は責任を持って果たそうとするが、自主的に発展的な課題に取り組む意識が低く、家庭学習時間が少ない。 ○自尊感情の高まりは見られるもの、人間関係が固定化する傾向があり、学校への帰属感や集団を大切に思う意識が低下している。	
〈授業〉	
○知識や技能の習得だけではなく、「できる」を「わかる」にするための生徒へのかかわりが十分ではない。 ○解決しようとする課題について、調べたことを比較・分類したり、自分の考えを周囲に積極的に発表したりする生徒が増加していない。 ○各単元における指導と評価の一体化において、指導に生かす評価と記録に残す評価が校内において統一されていない。	

育成する力 資質・能力		課題発見・解決力	思考力・判断力・ 表現力	主体性・積極性	共感力
めざす 子ども像	1 年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を発見している。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明をしたり、適切な方法を選択したりして表現している。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気づき、相手の立場を尊重し、行動している。
	2・3 年	生活や実社会と関連付けた課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	生活体験や既習事項から判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べたり、情報を他者と共有しながら、必要な選択をし、表現している。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、粘り強くやり抜くことができるよう行動している。	仲間とともに、何かを成し遂げた成功体験をもとに、人と人とのつながりの中で、助け合い励まし合って行動している。
研究	テーマ	「基礎学力をしっかりと定着し、主体的に学ぶ」生徒の育成			
	内容等	・自ら課題を発見し、その課題を解決する方法を自身や仲間と共に考え、実践できる力を獲得する。 ・学習課題等を発出し、生徒の生活態様が十分な家庭学習習慣の定着につながる指導を行い、学力の向上を図る。			
めざす授業の姿		・単元の中でつきたい力を意識した、授業展開を行う。 ・生徒の知的好奇心を喚起し、生徒が仲間と共に、自律・挑戦を行っている授業を確立する。			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立	大門中	学校
------	-----	----

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
3	基礎学力の定着と学びに向かう力の育成	★	継続	主体的対話的で深い学びの推進【課】【主】	・校内授業研究会を実施し、教師自身が授業を振り返り改善する。 ・学力調査結果を職員全体で分析する。	標準学力テストの学校平均が福山市内上位15校に入る（令和6年度24位）									
7	主体性・積極性の育成		継続	主体的に自治活動をする生徒の育成【課】	年間を通して縦割り集団を活用した自治活動（城興CUP）を仕組む	生徒アンケート「城興カップを意識した活動ができている」80%以上									
9	自己の健康管理と体力の向上に取り組む生徒の育成		継続	意欲的に体力向上に取り組む生徒の育成【主】	・体育の授業や部活動、家庭での体力づくりを仕組む。 ・生徒会活動による健康・安全・体力づくりの発信を仕組む。	生徒アンケート「体育を意欲的に学んでいる」90%以上									
3	教員一人一人が持っている力を高め、発揮できる環境の整備	★	継続	教職員が元気・笑顔で勤務できる環境の充実【課】	・校内外の研修を通して、授業力を高める。 ・教育課程を見直し、学校全体で業務の効率化と精選を図る。	教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」75%以上									
10	保護者・地域から信頼される学校経営	★	継続	持続的に地域貢献する生徒の育成【共】	・生徒の企画立案によるボランティア活動を仕組む。 ・定期的な便りの発行やHPの更新によりタイムリーに情報を発信する。	・保護者アンケート「大門中学校に通わせてよかった」90%以上									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。